

## 第4部 各区の特性と将来像

## 1. 区の特性と将来像について

本市では、各区がより区民に近い存在として、区民の意見を取り入れながら、地域の特性を生かしたまちづくりを進めてきました。しかし、少子高齢化などの社会情勢の変化に伴い、ライフスタイルや区民ニーズが多様化する中で、区民の自主的な参加により、地域の課題を行政との協働で解決していくことが重要になります。

このため、区民と行政が共にまちづくりを進めるための「区の将来像」を示すとともに、各区では積極的に区民意見の把握に努め、各分野の事業の状況を区民に分かりやすく情報提供し、事業の実施、見直し・改善を行います。

取組の推進にあたっては、区と本庁組織が連携し、区民と行政が一体となって、市全体の都市づくりの方向性と整合を図りながら、それぞれの地域課題に応じたまちづくりを進めていきます。

## 2. 構成について

### (1) 区の特性

#### ▶ 各区の特性

地形、歴史や文化などの区の特徴や都市基盤・環境、産業、地域資源、コミュニティといった区の現状や課題を示したものです。

#### ▶ 区マップ

道路や鉄道、コミュニティ関連施設、図書館、公園・スポーツ施設などの設置状況を示し、「区の特性」と併せて、計画策定時点における区の概要をまとめたものです。

### (2) 区の将来像

#### ▶ 各区の将来像

地域の特性を生かし、区民に身近なまちづくりを進めるための基本的かつ大きな方向性について、区民にとってより身近なものとなるよう、わかりやすい言葉で表現したものです。

#### ▶ まちづくりのポイント

「区の将来像」を実現するために、区の現状と課題を踏まえた取組を示したものです。

## 西区

### 特性

西区は広大な緑の空間を抱える荒川、桜並木の美しい鴨川やびん沼川が巡り、大宮花の丘農林公苑や錦乃原桜草園などがあって、自然環境に恵まれた季節の花々も豊かな「水と緑と花のまち」です。また、地域の祭りなど伝統芸能が今も親しまれ、地域文化が息づいたまちでもあります。

### ●都市基盤・環境

区の東部には国道 17 号新大宮バイパスと上尾道路が南北方向に、北部には国道 16 号西大宮バイパスが東西方向に延びており、西区と大宮駅周辺地区を結ぶ県道さいたま春日部線や県道さいたまふじみ野所沢線とともに道路体系の骨格を形成しています。また、平成 28（2016）年 4 月には国道 17 号新大宮上尾道路が事業化され、東京都心へのアクセス向上が期待されています。一方、東京から大宮駅周辺地区を経て結ばれている J R 川越線については、人口増加に伴い、日進駅以西の複線化が課題となっています。

区の中央部は、J R 川越線を挟んで住宅を中心とする市街地が広がっており、その周辺は雑木林や農地が残る緑の多い地域となっています。特に、区の西を流れる荒川沿岸は近郊緑地保全区域に指定されており、まとまった緑地や農地が広がると同時に、スポーツ・レクリエーション施設もある憩いの場となっています。今後はこれらの豊かな緑の保全と更なる活用が求められます。

J R 川越線の指扇駅や西大宮駅周辺地区は、指扇駅の橋上化・北口駅前広場の整備や、西大宮駅北側の土地区画整理事業の完了により利便性の向上が図られ、更なるにぎわいが期待されます。一方、区域が広いことから、駅周辺と各地区を結ぶ交通利便性の向上が強く求められています。コミュニティバスや乗合タクシーの運行により一定の改善が図られましたが、一層の充実が必要です。また、生活道路、公共下水道の整備については、引き続き進める必要があります。農業も盛んな西区ですが、スプロール化が進んでいる箇所も見られ、農地と住宅地との調和も課題となっています。

現在、西大宮駅南側で土地区画整理事業が進められ、良好な住環境の形成や生活基盤の整備により、西大宮駅北側一帯とともに、区民の交流や日常生活における新たな拠点として、役割を発揮していくことが期待されています。

### ●産業

国道 17 号新大宮バイパス沿いに飲食業や流通業が形成され、国道 17 号新大宮上尾道路の事業化により、流通業等の更なる進展が期待できるほか、指扇駅・西大宮駅周辺には身近な商業・サービス業が集積しており、区民生活の拠点となっています。

また、区の西部となる荒川流域には水田地帯が広がり、県内有数の早場米の生産地帯があるほか、北部では梨やぶどう等の果樹や野菜が作付けされており、直売やグループ出荷を軸に活性化が期待できます。

### ●地域資源

区内には荒川や鴨川などの大きな河川のほか、桜並木が整備されたびん沼川などの水辺や雑木林がありますが、これに加え、東部の三橋総合公園や鴨川みずべの里、西部の荒川沿いの西遊馬公園、南部の錦乃原桜草園、北部の秋葉の森総合公園や大宮花の丘農林公苑など、特色ある公園が多いことも区の魅力となっています。また、市指定無形民俗文化財である秋葉ささら獅子舞や指扇の餅搗き踊り、お囃子など民俗芸能が今も親しまれ、神社仏閣など地域固有の歴史・文化資源が保存・継承されています。

大宮アルディージャ練習場や荒川サイクリングロード、広大な荒川河川敷にある運動場などの地域資源や、さらに、首都圏では2例目、本市では初の公認グラウンド・ゴルフ専用コースとなる宝来グラウンド・ゴルフ場が整備され、新たなスポーツ環境が魅力となっています。

西区のこれらの資源を十分活用し、区の魅力向上に向けて、まちづくりに生かしていく視点が求められます。

### ●コミュニティ

地域コミュニティの温かさ、活発さは西区の特徴の一つとなっています。今後は、コミュニティの力を自立的なまちづくりに生かしながら、地域文化の伝承と創造、豊かな自然環境の保全、子育てや高齢者の支援などに取り組むために、具体的な施策を進めていくことが重要です。

※区マップを挿入

## 将来像

### 豊かな自然と歴史文化を生かす 全ての人と生活にやさしい潤いあるまちづくり

水と緑と花が象徴する豊かな自然環境、それに囲まれた潤いある住環境、歴史に根ざした地域文化、地域コミュニティの温かさなど西区の特性が調和したまちを実現するとともに、地域住民による主体的な取組を基礎として、全ての人々が共に生きるまちづくり、協働によるまちづくりを進め、区民が心豊かに誇りをもって住み続けられるまちを実現します。

#### <まちづくりのポイント>

##### 1 安全で安心して暮らせるまちづくり

- (1) 歩道や街灯などの充実やバリアフリーのまちづくり
- (2) 歩行者が安心して通行できる生活道路の整備
- (3) 鉄道駅や主要施設を結ぶ交通ネットワークの充実
- (4) 災害や犯罪などに対する安全性の向上
- (5) 公共用水域の水質保全のための公共下水道の普及と利用促進、公園やコミュニティ関連施設など公共施設が身近に利用できる環境の整備

##### 2 活力のあるまちづくり

- (1) 生活に密着した商業、都市農業など、区の特徴を生かした産業の育成
- (2) 生産者、消費者、行政が連携した地産地消の推進
- (3) 鉄道駅周辺の整備による活性化
- (4) 区の特徴を生かした学習活動やスポーツ、健康づくりや施設の充実
- (5) 三橋総合公園などの特色ある公園を生かした交流の場づくり
- (6) 民俗芸能等の無形の文化財や史跡等の有形の文化財の活用による地区の魅力向上
- (7) 市民参画のまちづくりに向けた仕組みづくり、ボランティア活動に関わるネットワークの支援

##### 3 子育てしやすいまちづくり

- (1) 子育て世代に合った保健福祉、教育、交流の充実
- (2) 共働き世帯の増加と少子化の流れに対応し、区民による支え合いの仕組みなども取り入れ、仕事と家庭を無理なく両立できる子育て支援の充実
- (3) 公共施設などを活用した、多世代交流の機会づくりや子ども・青少年の活動機会の充実

##### 4 高齢者や障害者が生き生きと生活できるまちづくり

- (1) 高齢者が社会活動に参加できる機会や高齢者の健康づくりの充実
- (2) 行政と地域住民や民生児童委員、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターの連携・協力などを通じ、高齢者の自立した生活を見守る環境の整備

(3) 障害者の地域生活を支援するネットワークづくり

## 5 環境と共生したまちづくり

- (1) 雑木林や川、貴重な動植物などの豊かな自然を残し、生かすまちづくり
- (2) 自然環境と調和したまちづくりに向けた、農地の保全と休耕地の有効活用
- (3) 市民参加による自然環境の保全
- (4) 豊かな自然と歴史文化にふさわしい景観の保全及び史跡の維持、保存
- (5) 水辺を生かした環境の整備
- (6) 区の花アジサイを生かした環境の整備
- (7) 自然環境を生かしたサイクリングロードの整備

## 北区

### 特性

本市の北部に位置する北区は、世界に誇る日本の文化である盆栽を継承する大宮盆栽村や盆栽文化振興の拠点施設である大宮盆栽美術館、日本近代漫画の先駆者北沢楽天ゆかりの漫画会館、市指定無形民俗文化財である日進餅つき踊りなどの伝統的な文化財産を有し、個性豊かな地域資源に恵まれた区です。また、区のほぼ中央にある日進・宮原地区は、プラザノースを始め、公共・公益・商業・業務機能及び都市型住宅から成る複合市街地として、本市の副都心にふさわしい、にぎわいの創造と生活交流の拠点が整備されています。

### ●都市基盤・環境

北区には、大宮駅から放射状に延びるJR高崎線・宇都宮線・川越線、東武野田線（東武アーバンパークライン）、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）などの鉄道・軌道系路線が充実し、また国道17号、国道16号東大宮バイパス、産業道路などの広域幹線道路が整備された交通利便性の高い地区となっています。また、土地区画整理事業などにより都市基盤施設の整えられた市街地がほぼ全域にわたり、北部には大規模な工業団地が、駅周辺や幹線道路周辺には工業・商業・業務地が広がる一方、東部を流れる芝川、見沼代用水西縁に沿って緑の空間である見沼田圃が広がっています。

宮原地区では区役所、図書館、ホール等の機能を複合化し、さらに芸術創造・ユーマ機能等を有する施設であるプラザノースを中心として、周辺には商業、都市型住宅等が整備され、日進駅周辺地区では、住宅・商業施設等が建設されるとともに、日進駅の橋上化により北口と南口の駅前広場が整備されています。

都市基盤整備が大きく進展する中、歩行者や自転車利用者が安全に通行できる道路の整備や駅のバリアフリー化といった交通環境の向上、災害への対策、中高層住宅と周辺環境との調和なども求められています。

### ●産業

区の北部には大宮総合食品卸売市場や吉野原工業団地があり、本市の流通・生産拠点としての顔を備えているほか、中央部から南部にかけてもJR高崎線・川越線の沿線を中心に企業が多数立地しています。また、日進・宮原地区での副都心整備により商業・業務機能が向上し、産業面での役割も一層高まるものと期待されています。

### ●地域資源

区の南部には、日本屈指の盆栽郷として世界的に知られている大宮盆栽村があり、盆栽の素晴らしさ、面白さに気軽に触れていただくための拠点施設である大宮盆栽美術館を中心

に、国内外から多数の見学者が訪れています。隣接地には、日本の近代漫画を確立した北沢楽天の作品を展示する漫画会館や市民の森などもあり、伝統的な文化や緑豊かな自然など、多くの地域資源があります。また、氷川参道から大宮公園、大宮盆栽村、市民の森へと続く緑の回廊は、全国にも類例のない貴重な緑地エリアとなっています。さらに、西部には、鴨川の斜面林に湧く清水があり、三貫清水として住民による自主的な清掃活動などにより守られています。

#### ●コミュニティ

北区は都市基盤施設の整備が進められてきた地区であり、交通利便性が高く新たな住民も増加していることから、地域住民の交流を活性化していくことが重要です。また、安全・安心の確保や健康・福祉に対する関心も高く、住民、地域団体、事業者、行政など各主体の連携による防災・防犯への取組や、子育て環境の充実及び健康づくりの促進が求められています。

※区マップを挿入

## 将来像

私が誇れるまち 市民参加のまちづくり

—住み続けたいまち もっとよいまち 北区—

住民、地域団体、事業者、行政などが連携して、豊かな自然と快適な生活環境の調和を図り、盆栽を始めとする地域資源を生かしつつ、市民参加でみんなが誇れる魅力あるまちを目指します。

### <まちづくりのポイント>

#### 1 安全で安心して元気に暮らせるまちをつくる

- (1) 防災・防犯・事故防止に取り組む安全・安心なまちづくり
- (2) 子育て環境の充実による、子どもが安心して健康で元気に暮らせるまちづくり
- (3) 健康づくりへの支援、地域における支え合いなどによる、誰もが心身ともに健康で元気に暮らせるまちづくり

#### 2 良好な住環境と円滑な交通環境をつくる

- (1) 住宅、工場、農地及び自然との調和や景観形成、生活に身近なインフラの整備などによる良好で快適な住みやすい環境づくり
- (2) 公共交通の充実、道路の整備などによる利便性の向上や、道路や駅のバリアフリー化、自動車・自転車・歩行者の交通ルールの啓発と交通マナーの向上などによる安全で良好な交通環境づくり

#### 3 教育・文化の充実とコミュニティの活性化を図り、ふれあいのあるまちをつくる

- (1) 学校と地域の結びつきの強化などによる、地域への愛着心の育成と子どもを地域全体で育てる風土づくり
- (2) 盆栽・漫画など固有の伝統文化の育成・継承とともに、新たな地域資源を発掘し、国内外への情報発信とこれらを生かしたまちづくり
- (3) スポーツ・レクリエーションや、様々な生涯学習のための環境づくり
- (4) 若い世代、子育て世代、高齢世代の世代間交流、住民間の交流、コミュニティ間の交流など多様な交流が盛んなまちづくり
- (5) 地域活動への住民の参加促進と行政による支援の充実、地域づくり

#### 4 自然環境の豊かなまちをつくる

- (1) 北区の花「菜の花」、市民の森、三貫清水や、盆栽町に代表される街なかの緑など豊かで心安らぐ緑地と、鴨川・芝川など水辺環境とのつながりによる、潤いのあるまちづくり
- (2) 水と緑との共生に向けた、環境保全のための活動の充実と意識づくり

## 5 産業の活性化を図り、働きやすい環境をつくる

- (1) 地域資源を生かし、地域住民のニーズに密着した、人が集まり楽しく過ごせる活力ある商店街づくり
- (2) 盆栽・漫画・鉄道などの地域資源を活用した、多くの人を訪れる観光のまちづくり
- (3) 地域産業の活性化と、事業者との連携による若者や女性などが働きやすい環境づくり

## 大宮区

### 特性

大宮区は、本市中央部の北寄りに位置し、古くは武蔵一宮氷川神社の門前町、中山道の宿場町として栄えました。そして、大宮駅の開設とともに鉄道のまちとして発展してきました。区のほぼ中央には、全国有数のターミナル駅である大宮駅及び県内最大級の商業・業務地区があり、東日本の玄関口としての交通の結節点・経済の中心地となっています。

### ●都市基盤・環境

大宮区は、北陸・北海道新幹線など新幹線6路線を含むJR線、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）が南北に延び、JR川越線、東武野田線（東武アーバンパークライン）が東西に延びています。道路においては、国道17号、旧中山道、産業道路が南北方向の軸、県道さいたま春日部線などが東西方向の軸となっています。鉄道・幹線道路の充実した大宮区は商業・業務地区が集積し、高度な都市機能を有するまちとして発展しており、活動拠点を構える企業が増えています。

また、東日本の玄関口として、北陸・北海道新幹線の開業や上野東京ラインの開通等から、交通の結節点としての大宮駅の重要性がこれまで以上に高まっています。

これらにぎわいのある地区の外側には静かな住宅街が広がっており、区内には、コミュニティ関連施設を始め、各種の文化・スポーツ施設などの公共施設も整備されています。

このように、基本的な生活環境や基幹的な道路・交通環境は整備されていますが、大宮駅及び周辺を中心市街地と郊外とを結ぶ東西方向の道路・交通環境については、更に充実を図る必要があります。

大宮駅周辺地区は県内最大級の商業・業務地区であり、近年は駅周辺に予備校や専門学校などが増えており、若い人々が集まり、活気とにぎわいを醸し出しています。今後も、大宮駅グランドセントラルステーション化構想に基づく駅周辺街区のまちづくり、交通基盤整備及び駅機能の高度化等を進め、開発の進むさいたま新都心東口とともに、新しい時代にふさわしい快適な街並みとして整備されることにより、商業・業務機能の一層の集積による広域的な発展が期待されています。同時に、区民生活に必要な身近な商業・サービス機能が集積した地区として、子どもから高齢者まで誰もが住みやすく、住み続けたいまちとしての整備も求められています。

### ●産業

大宮区は、鉄道のまち、商業・工業・業務のまちとして発展してきた歴史があり、区の中央部に商業、サービス業などの産業が集積しています。特に、商業は市全体の経済活動の面で重要な役割を担っていますが、古くからの商業地の中には活性化が必要とされてい

るところもあり、事業者と行政が連携して魅力あるまちづくりを進めることが求められています。また、全国有数のターミナル駅としての拠点性を生かした新たな核となる産業の創出や東日本の対流拠点都市実現のための整備が求められています。

#### ●地域資源

大宮区は、さいたま新都心から続く2kmにわたる氷川参道や県内初の県営公園である大宮公園が区の中央部に緑豊かな一画を形成するとともに、見沼代用水西縁に広がる見沼田圃などの原風景がつながる空間があります。また、社記によれば、およそ2,000年以上の歴史があるとされる武蔵一宮氷川神社、鉄道博物館、大宮ソニックシティ、JACK大宮（大宮情報文化センター・宇宙劇場）等の歴史・文化施設、野球場や大宮アルディージャのホームスタジアムであるサッカー場などのスポーツ施設が数多く整備されており、これらの地域資源を活用して人と人との交流を深めるとともに、地域に根づいた文化等の価値を高め、積極的に発信していくことが大切です。

#### ●コミュニティ

大宮区は、古くからの住民が多く住む一方、マンションの多い中心市街地や郊外には新たに転入してきた区民も増えており、地域住民相互の交流の促進が求められています。その促進のためには、自治会・まちづくり団体・ボランティアグループなどの各種市民活動団体や、地域への社会貢献活動を積極的に行う事業者と行政が連携を図りながら、地域における目的の実現や課題の解決に向けて協力することが重要です。

※区マップを挿入

## 将来像

### うるおいのある高度な生活基盤と氷川の杜の緑と文化が調和するまち

商業・経済都市としてのまちのにぎわいと暮らしやすい生活環境、憩いの空間である氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など、大宮区の特性をより高めながら、多彩な資源を活用して地域文化を発信し、東日本の玄関口にふさわしい風格ある都市及び人と人との交流を生み出すヒト・モノ・情報が行き交う対流拠点として、魅力と活力あるまちづくりを進めます。

### <まちづくりのポイント>

#### 1 東日本の玄関口としてふさわしい、拠点性を高めた大宮駅周辺のまちづくり

- (1) 大宮駅周辺とさいたま新都心駅（東口）とが一体となった広域的なまちづくり
- (2) 大宮駅グランドセントラルステーション化構想による交通基盤整備、駅機能高度化及び駅周辺街区のまちづくり
- (3) 大宮駅東口周辺の業務機能の充実や商業のにぎわいと氷川の杜の歴史・文化が調和したまちづくり
- (4) 大宮駅西口周辺の商業・業務機能の充実と都市施設整備などによる洗練されたまちづくり
- (5) さいたま新都心駅東口周辺の商業機能の充実などによるにぎわいと活力あるまちづくり
- (6) 訪れる人誰にもやさしく、楽しく、安全・安心でおもてなしにあふれた大宮駅周辺のまちづくり

#### 2 質の高い生活環境と安心して暮らせるまちづくり

- (1) 安全・安心に暮らせる、災害に強く、犯罪のないまちづくり
- (2) 渋滞のない道路交通環境や安全な生活道路など、道路・交通環境の整った快適に暮らせるまちづくり
- (3) 自動車、自転車の交通ルール・マナーの啓発による交通事故のないまちづくり
- (4) 区民の健康増進や環境対策の推進など、健康に住み続けられるまちづくり
- (5) 育児環境の整った子育てをしやすいまちづくり
- (6) 子どもから高齢者まで誰もが元気に活動できるまちづくり
- (7) 学校と地域との活発な交流による教育環境の整ったまちづくり
- (8) 身近な公共施設の整備など、計画段階から地域住民が参加するまちづくり

#### 3 区の魅力の発信と、人の交流が生み出すまちづくり

- (1) 氷川の杜の緑や見沼田圃の自然、氷川神社や鉄道を始めとする歴史伝統文化などの固有の地域資源を活用した個性あるまちづくり
- (2) 伝統芸能の振興、地域に根付いた特色ある祭りなど、誰もが参画できるまちづくり
- (3) まちの情報や観光ルートが充実した国内外から訪れたいくなる、おもてなしにあふれたまちづくり

- (4) 行政と区民の協働により、まちの魅力を新たに作りながら、それを知り、高め、伝えるまちづくり
- (5) 若者が集い、活力ある文化を発信するまちづくり
- (6) 区民による文化・スポーツ活動の充実と大宮アルディージャとの交流によるまちづくり
- (7) 地域住民相互の交流の活発化、行政と連携したボランティア活動などコミュニティづくりによるまちづくり

#### 4 自然環境と調和したうるおいのあるまちづくり

- (1) 氷川の杜の緑や見沼田圃の自然などを保全し、憩いの場としての活用によるまちづくり
- (2) 鴨川・鴻沼川・芝川・見沼代用水などを生かした水と緑のネットワーク化によるまちづくり
- (3) 街路樹の整備などによる市街地の景観に配慮したゆとりある空間の創出によるまちづくり

## 見沼区

### 特性

市の北東部に位置する見沼区は 10 区の中で 2 番目の区域面積を持ち、区域の西から南、東を縁取るように首都圏有数の緑地空間である見沼田圃が広がり、また、東部には綾瀬川が流れており、豊かな水と緑に恵まれています。一方、北部には高層住宅群を始め計画的に形成された市街地が広がるなど、都市機能と豊かな自然が調和した良好な生活環境が形成されています。

### ●都市基盤・環境

区のほぼ中央を東武野田線（東武アーバンパークライン）が東西に、北西部には J R 宇都宮線が南北に延びており、いずれも大宮駅と結んでいます。また、幹線道路としては、第二産業道路が区の西部を南北に、県道さいたま春日部線が区の中央部を東西に延びているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジにも近接していますが、広い区域面積に比べて道路や公共交通の整備は未だ十分とはいえません。

住宅地としては、国道 16 号東大宮バイパス北側地区では、中高層の住宅街が整備されているほか、他の地域においても多くの土地区画整理事業により、良好な住環境づくりが進められています。

その反面、区内には、ミニ開発によるスプロール化や宅地の細分化なども見受けられ、計画的に都市基盤・生活基盤の整備充実を図る必要があります。また、鉄道駅や区内の主要箇所を結ぶ道路・交通の整備を始め、徒歩や自転車による移動環境の向上を図るなど、豊かな自然と共生できる暮らしやすいまちづくりが求められています。

### ●産業

商業・サービス業では、既存の商店会（商工会）に加え、大型商業店舗などが増加しており、特に、東大宮駅・大和田駅周辺や、国道 16 号東大宮バイパス、第二産業道路、県道さいたま春日部線沿いには飲食店やスーパーマーケットが建ち並んでいます。

また、見沼田圃を中心に農地が広がり、稲作のほか、花きや花木、野菜など多岐にわたる栽培が行われています。

### ●地域資源

区名の由来となっている見沼田圃は、見沼代用水東縁や芝川と背後の斜面林が一体となり、その景観がつくられています。また、見沼代用水東縁沿いには緑のヘルシーロードや「見沼田んぼの桜回廊」があり、見沼田圃の動植物や景観を楽しむことができます。この他、大宮南部浄化センターのみぬま見聞館・自然庭園、旧坂東家住宅見沼くらしっく館など、緑の

文化ともいべき地域資源が数多くあります。

この自然景観や生態系の維持のためにも農家、地域住民、行政が連携した取組による見沼田圃の保全策を積極的に推進していく必要があります。

また、大宮武道館、堀崎公園等のスポーツ施設や、3つのコミュニティセンターなどが区民の様々な活動、交流の場として利用に供されています。

#### ●コミュニティ

見沼区では、豊かな自然や文化などの地域資源を生かした様々な活動による地域交流が図られています。今後も多様な主体による協働・連携を推進し、地域コミュニティを充実させることで、ふれあいのある住みよいまちづくりを推進していくことが求められています。

※区マップを挿入

## 将来像

### 見沼の自然との共生

#### —私たちが まもり育てる 見沼の文化—

区民、事業者、行政の協働により、見沼区の地域資源である豊かな自然や歴史などを守り育てるとともに、ふれあいのある生活しやすい、安全で安心なまちづくりを推進します。

#### <まちづくりのポイント>

##### 1 見沼の自然を生かし、身近に感じられるまち

- (1) 見沼の多様な自然の保全・活用とネットワーク化の推進
- (2) 見沼の自然を生かし、人々が集まり、活動し、交流することのできる、豊かな水と花や緑あふれるオアシスの創造
- (3) 区民、事業者、行政が協働して取り組む、環境や景観に配慮した住宅地の整備、斜面林等の緑地の保全、農業体験や地産地消等を踏まえた農業の振興と農地の保全など自然と調和した土地利用

##### 2 人にやさしく、ふれあいのあるまち

- (1) 子どもがのびのびと育ち、若者、高齢者、障害者が生き生きと健康に暮らし活動できる、あらゆる人にやさしい、思いやりのある地域づくり
- (2) 見沼の自然や歴史など、地域固有の資源を生かした誇りと愛着の持てるコミュニティの創出と文化の振興
- (3) 様々な分野の組織や世代を超えた人々が交流できる場や機会の充実と、情報共有の促進
- (4) 既存施設などの充実や有効活用による、様々な地域活動の活性化に向けた環境づくり

##### 3 動きやすく、生活しやすいまち

- (1) 子どもから高齢者までが移動しやすい、電車・バス・自転車による交通環境の充実と、駅や区役所など主要施設のバリアフリー化とアクセス性の向上
- (2) スポーツ施設間の連携促進と気軽に運動しやすい環境づくり
- (3) 駅周辺の活性化や、道路、下水道の充実など、暮らしやすい生活基盤づくり

##### 4 地域ぐるみで進める安全・安心なまち

- (1) 区民、事業者、行政の連携による防災・防犯・交通安全対策の推進
- (2) 子どもから高齢者までの歩行者や自転車が安全に、安心して利用できる道路環境の整備

## 中央区

### 特性

中央区は、従来、区域の中で一体的なまちづくりが行われてきたことから、都市基盤の整備が比較的進んでおり、地域のコミュニティのつながりも深いことが特徴といえます。また、本町通りは古くから市場町として栄えた歴史から、蔵造り住宅などの街並みや文化財が残るとともに、区の北東部に位置するさいたま新都心地区とその周辺では新しい中高層の建築物も増えており、文化的な風情、都市的な魅力が共存しています。

### ●都市基盤・環境

中央区は、区の中央部を縦断するJR埼京線の3駅（北与野駅、与野本町駅、南与野駅）に加えて、区の東側にはJR京浜東北線の2駅（さいたま新都心駅、与野駅）もあり、鉄道の利便性が高い地域です。また、幹線道路としては、南北方向に国道17号と国道17号新大宮バイパス、さらに国道17号新大宮バイパス上には首都高速埼玉大宮線、東西方向には国道463号が延びており、首都高速埼玉大宮線から首都高速埼玉新都心線がさいたま新都心に延びていることから、区内だけでなく広域的な移動においても利便性の高い地域となっています。

公民館などの身近な公共施設や下水道、公園なども区全体にわたっておおむね整備されています。今後は、都市化の進展に伴う緑の減少への対応、古い街並みと新しい都市空間の調和、歩いて楽しいみちづくりなど、生活環境の質の向上が重要です。

また、与野駅と与野本町駅とに挟まれた区域には、区役所を中心とする公共機関及び商業・サービス業が集積しており、旧与野市時代からまちの中心となっています。今後は、さいたま新都心を中心とした地域全体の魅力の向上と地域の均衡ある発展に向けたまちづくりの推進にも努める必要があります。

### ●産業

本町通りや与野停車場線沿いの地元商店街、JR埼京線3駅周辺の商業施設のほか、国道17号沿いには自動車販売業が、さいたま新都心には飲食業・サービス業・宿泊業が、それぞれ集積しています。

しかしながら、交通利便性の向上と市民の生活圏域の拡大に伴って、既存の商店街の活力が失われている面などもあるため、地域の均衡ある発展が求められています。

### ●地域資源

ほぼ全域が市街化区域となっている中央区では、区の中央を流れる鴻沼川・高沼用水、与野中央公園などが自然と触れ合う貴重な資源となっています。今後、その保全や質の向上を

図るとともに、より積極的に新しい緑を生み出し、広げていくことが重要です。

与野本町駅から徒歩圏内の与野公園には、バラ園が設置されており、毎年5月に開催されている「ばらまつり」の時期を中心に多数の来場者を迎えます。バラ園は、市街地に隣接した公園内に設置されていることから区民に身近でなじみが深く、バラは「区の花」にも選ばれています。

また、区内にはさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場など、広域的に集客できる機能があり、こうした都市機能と有機的に連携したまちづくりを進めていくことも求められています。

### ●コミュニティ

中央区では、地域のまとまりの良さもあって、従来から地域住民によるコミュニティ活動が活発に行われ、それらの活動の連携も進んでいます。しかし、これからのまちづくりには、新しく転入してくる住民や地域との関わりが薄い若い世代などの力も必要です。長い歴史を持つ既存の地域コミュニティの実績や人のつながりを生かしながら、より柔軟な新しいコミュニティの形成にも努め、人々の交流をまちづくりの基盤にしていくことが課題です。

※区マップを挿入

## 将来像

ふれあい

### 歴史と文化の調和のとれた都市の創造と交流が育てる安心なまち

中央区には、古くから引き継いできた歴史と文化の薫る街並みと家族のような人々の深いつながりがあります。その従来から培われた伝統を生かしながら、さいたま新都心を中心とする都市の魅力を加え、安全・安心な“美しいまち”“美しい心があふれるまち”を創り、次の世代に伝えていくため、人々が積極的に発言し、主体的に行動するまちを目指します。

#### <まちづくりのポイント>

##### 1 区の特徴を生かした魅力的な街並みと緑豊かな環境づくり

- (1) 区の花バラや与野の大カヤ、鴻沼川の桜、蔵造りを始め歴史を感じる街並みなど、自然や資源の保全・活用・充実
- (2) 公園などのまとまった緑の保全・充実、そうした緑の拠点を川や道を利用してつなぐ緑のネットワークの形成と川辺の整備
- (3) ごみの減量化やリサイクル、省エネルギーなどの環境保全活動や道路・公園の清掃などの環境美化活動の推進

##### 2 地域資源を生かした、調和のとれたにぎわいづくり

- (1) 街並みや緑、歴史・文化などの古くからある資源とさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場などの新しい資源を生かした、古いものと新しいものの調和
- (2) さいたま新都心を中心とした、地域全体の魅力向上と地域の均衡ある発展
- (3) J R 埼京線沿線の未利用地や道路空間などを有効活用した人々の集まる新たな空間の形成
- (4) 活気ある商店街と地域社会を支える産業の活性化

##### 3 学びと交流を通じた、地域の誇りと愛着を持つ人づくり

- (1) 明日を担う健全な子どもたちの育成と地域の特性を生かした教育の推進
- (2) 地域の歴史・伝統・文化や人材を活用した生涯学習や人づくりの実践
- (3) 子どもから高齢者に至るまで、幅広い世代における地域との関わりや交流の場、スポーツができる機会の創出

##### 4 ふれあいと支え合いによる、安全・安心と生きがいのある地域づくり

- (1) 地域で安心して、子どもを産み育てられる環境と、子どもたちの健やかな成長を支える場や機会の提供
- (2) 地域福祉における支え合いのネットワークづくりや交通手段の確保、安全な道路の整備、交通マナーの向上等による子どもや高齢者・障害者を始めとした区民の安全・安心で生

き生きとした暮らしの確保

- (3) 災害時における区民自らの役割である自助と地域で支え合う共助、行政の役割である公助などによる安全・安心な地域づくり

## 5 区民との協働による地域に根ざしたまちづくり

- (1) 主要な公共施設の再編整備等における、区民と共に進めるまちづくり
- (2) 地域を支える自治会を始めとした各種団体への加入促進による地域活動の活性化
- (3) 区民の自主的な活動と連携の積極的な支援によるコミュニティの充実
- (4) 区民と行政の協働の仕組みづくりと協働の実践の機会の創出
- (5) 地域に根ざした従来からのきめ細かいサービスの維持・向上と、他区との連携による新しいサービスの展開

## 桜区

### 特性

桜区は西側を荒川が流れ、桜草公園や秋ヶ瀬公園、荒川総合運動公園などが自然豊かなグリーンベルトを形成するなど、都市化の進んだ本市の中では豊かな自然環境を多く残した地域です。東部や南部には住宅を中心とする市街地が形成されており、基幹道路沿いには流通業務施設や工場が立地しているほか、区の中央部に位置する埼玉大学では、約1万人の学生・教職員が教育、研究、社会貢献など様々な取組を行っています。

### ●都市基盤・環境

主要な道路としては、東西方向に埼玉大通り（国道463号）や町谷本太線、南北方向に国道17号新大宮バイパス、首都高速埼玉大宮線が走っているほか、道場三室線などの整備が進められています。また、鉄道駅として、区の南端部にはJR武蔵野線の西浦和駅があるほか、区境に近接してJR埼京線の南与野駅、中浦和駅があります。

しかし、国道17号新大宮バイパスとの交差点における渋滞発生のほか、歩行者等と車のすれ違いが困難な道路が多いことや駅へのアクセスが不便であることなどの問題が見られることから、超高齢社会の到来や環境問題などにも対応しながら、地域に密着した道路整備や公共交通の充実など、安全で利便性の高い交通環境の向上に取り組む必要があります。

その他にも、地震対策・風水害対策の強化や防犯活動・交通安全運動の推進など、今後更に安全で安心して暮らせる生活環境等の充実が必要となっています。

西浦和駅周辺については、暫定的に駅前広場や駅へのアクセス道路が整備されましたが、今後も都市基盤や産業基盤の整備、生活に密着した商業機能の充実を図るなど、利便性の向上が求められています。

### ●産業

基幹道路である国道17号新大宮バイパスの沿道には、卸売市場や飲食店などが立地しているほか、区役所北側には工業団地が形成されています。

荒川沿いにある農地では、現在も稲作を中心に野菜など農産物の栽培が行われています。

埼玉大通り（国道463号）沿いや西浦和駅周辺にある商店街では、にぎわい創出に向けた催しが行われており、更なる商業の活性化が求められています。

## ●地域資源

荒川河川敷には、国指定特別天然記念物の田島ヶ原サクラソウ自生地、ハンノキ林等の樹林地など良好な自然環境があり、豊かな田園環境も残されています。また、大久保古墳群や神社仏閣、田島の獅子舞や宿・神田の祭りばやしなどの歴史的・文化的な財産も豊富です。

道場地区には記念総合体育館に隣接して区役所、図書館、ホール等を有するプラザウエストが整備され、生涯学習を始めとする様々な市民活動や行政サービスの拠点となっています。また、新開地区にある桜環境センターには余熱体験施設が整備され、健康維持・増進にもつながる区民の憩いの場となっています。

このような地域の資源を積極的に活用し、ふれあいやにぎわいの機会を創出することが重要です。

この他、埼玉大学の英知や学生の若い力も地域の資源として、連携しながら特徴あるまちづくりに取り組んでいくことが大切です。

## ●コミュニティ

区内では、自治会やボランティア団体による地域コミュニティ活動が活発に進められている一方、それらの活動への若い世代の参加、後継者の育成などが課題となっています。

このため、従来のコミュニティ活動の更なる活性化を図りつつ、多くの住民の参加を促し、コミュニケーションの輪を広げていくことが必要です。

そして、住民や地域団体、事業者、大学、行政などが連携を図りつつ、子ども、高齢者、障害者など、全ての人々が安心して元気に暮らせる環境づくりに取り組み、住みやすい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めていくことが大切です。

※区マップを挿入

## 将来像

### 三世代がつくる元気なまち

#### －自然があふれ、人々が触れ合う住みよい環境－

桜区は、西側を荒川が流れ、桜草公園、秋ヶ瀬公園から続くグリーンベルトや数多くの歴史的・文化的財産のほか、知的財産である埼玉大学、区民の活動拠点となるプラザウエストやスポーツ施設などがあります。これらの地域資源を生かし、豊かな生活文化をはぐくむことにより、子どもから高齢者まで全ての区民が生き生きと活動でき、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

#### <まちづくりのポイント>

##### 1 自然と便利さが調和する、住みやすいまちづくり

- (1) 豊かな自然や歴史的・文化的財産の保全と、それらの積極的な活用
- (2) 地域産業の活性化と、地域資源を生かした、ふれあいやにぎわいの機会の創出
- (3) 地域に密着した道路整備などによる生活環境の向上
- (4) 駅へのアクセスを含めた公共交通の充実などによる利便性の向上

##### 2 子ども、高齢者、障害者など、全ての人にやさしいまちづくり

- (1) 地域に暮らす様々な世代が支え合う、安心してしっかりと子育てができる環境の整備
- (2) 子どもたちの健全育成に向けた、地域の人々や大学生などとの交流の促進
- (3) 高齢者の健康づくり支援と、地域における支え合いの推進
- (4) 誰もが生き生きと暮らし、元気に活躍し続けるための機会の充実

##### 3 安心して暮らせる安全なまちづくり

- (1) 地域の人々と行政が協働して取り組む、地震対策や風水害対策の強化と防災意識の醸成
- (2) 地域の人々と行政が協働して取り組む、防犯活動や交通安全運動の推進

##### 4 全ての人に参加するまちづくり

- (1) 自治会を始めとする各種団体などと行政が協働して取り組む、地域活動の推進
- (2) 地域に暮らす誰もが気軽に交流し、連携して活動することのできる機会の充実
- (3) 地域の人々と行政が協働して取り組む、環境美化活動の推進
- (4) 埼玉大学の英知の活用や若さあふれる感性との交流の促進
- (5) 地域の人々と行政が情報を共有し、協働することによる、信頼関係に基づくまちづくりの推進

## 浦和区

### 特性

浦和区は、中山道浦和宿が置かれたことを契機に急速な発展を始め、明治初期には県庁が設置され、埼玉県行政の中心地としての役割を担うようになりました。市役所を始め県などの官公庁や文化・教育施設が数多いことから、歴史のある文教地区としてのイメージが定着しています。

### ●都市基盤・環境

区内には、南北方向に国道 17 号や旧中山道、産業道路が、東西方向には国道 463 号や田島大牧線が伸びて、道路体系の骨格を形成しています。また、JR 線の 3 駅（浦和駅、北浦和駅、与野駅）があり、なかでも浦和駅周辺は商業・業務機能、行政機能、文化、街なか居住機能などが集積する本市の都心として、市の発展の一翼を担っています。大きくみると、JR 線沿線を境に西側にはオフィス街が、東側は緑の多い住宅街が広がり、にぎわいと潤いが共存するという特性を有しています。

長い歴史の中で発展してきたことから、道路などの都市基盤や公共交通機関、身近な公共施設の整備は比較的進んでおり、生活利便性の高い地区となっています。一方で、都市化による交通混雑の解消や歩行者の安全確保など道路交通環境の向上、増加する中高層住宅と近隣の生活環境との調和といった課題も生じており、その対応が必要となっています。また、市内では極めて人口密度の高い区の一つであることから、身近な緑や都市空間のゆとりの創出など、生活環境の質的な向上が求められています。

### ●産業

浦和駅周辺地区には大型商業施設や金融機関などが多く集まり、大宮駅周辺地区とともに本市における商業・サービス業の中心となっています。近年では、鉄道高架化事業の完成により東西市街地一体化が図られたことに加え、中ノ島地下通路の開通により、まちの回遊性やにぎわいが高まり、日常生活の利便性向上や経済活動の活性化が図られました。また、今後の再開発事業等の進展により、更なる回遊性の向上やにぎわいの創出が期待されています。一方で、北浦和駅や与野駅周辺にも、商業や各種のサービス業が集積していますが、商店街の一層の活性化が望まれています。

## ●地域資源

浦和区は古くから発展したまちで、その歴史は旧中山道周辺の街並みや神社仏閣、史跡や天然記念物等の文化財、古くから伝わる祭りなどから読み取ることができます。また、美術館や図書館、スポーツ施設、高等学校なども多く、教育・文化に関わる資源に恵まれていることが特徴です。

浦和区は埼玉サッカー発祥の地でもあり、浦和駒場スタジアム（駒場運動公園競技場）や大原サッカー場が整備されており、まちはサッカーを愛するファンでにぎわいを見せています。そのほか、区内にある12の公民館や浦和コミュニティセンターなどは区民の様々なコミュニティ活動の拠点となっています。また、子ども家庭総合センター（愛称：あいばれっと）も整備され子育て支援や地域交流の場ともなっています。加えて、国際交流基金「日本語国際センター」が設置されていることから、このセンターを活用した国際交流が創出されています。

## ●コミュニティ

浦和区では、自治会が中心となって地域コミュニティ活動や行事などを活発に行っており、ボランティア団体やNPO、市民活動ネットワークなどによる自発的な活動も盛んです。住民が共に参画し、多彩なコミュニティ活動を通じて交流を深め協働によるまちづくりを進めていくことが大切です。

また、市内では単身高齢者世帯が多い区の一つとなっていることから、地域の見守りを更に強化し、支え合いのネットワークづくりに一層取り組む必要があります。

※区マップを挿入

## 将来像

### にぎわいと文教の調和する緑豊かなまち

#### —ワクワク浦和区、わたしの明日をつくるまち、わたしが明日をつくるまち—

浦和宿に代表される歴史と文化を伝える文教都市・浦和区は、都心としてにぎわいのある地区と、緑豊かな落ち着いた住環境の地区の2つが共存しています。この特性を踏まえ、住み続けたいまち、行ってみたいと思えるまちとしての魅力を一層高めるため、地域に住む人々の参加と協働を基本に、浦和区の歴史、文化、環境の資産を生かした郷土愛があふれるまちづくりを進めます。

#### <まちづくりのポイント>

##### 1 多様な交流のあるコミュニティづくり

- (1) 身近な地域での交流や活動の活発化によるコミュニティ意識の醸成
- (2) 地域住民が交流し、地域をより深く知り、考える場や機会の積極的な創出
- (3) 地域住民と行政の協働を実現するための環境の整備
- (4) 世代や文化、居住する地域など様々な差異を超えて人々が触れ合い、誰もが楽しく活動し、人々の理解と共感が広がるまちづくりの推進

##### 2 「浦和ブランド」を活用した魅力あるまちづくり

- (1) 子どもたちの夢と希望をはぐくむ、地域に密着した教育の推進
- (2) 生涯を通じた学びの場と機会の拡充
- (3) 恵まれた伝統ある教育・文化・スポーツ資源を活用した、芸術・文化活動の振興
- (4) 旧中山道や神社仏閣が伝える歴史、サッカーやうなぎのまちとしての特性の活用や、新たな浦和ブランドによる区の魅力の向上と情報発信力の強化

##### 3 一体性と「にぎわい」のあるまちづくり

- (1) 鉄道を挟んだ東西連携による一体的なまちづくり
- (2) 駅周辺などにぎわいの拠点や商店街の持つそれぞれの魅力を活用した、若い世代を中心に誰もが訪れやすい活気のあるまちづくりの推進

##### 4 ひとにやさしい誰もが安心して暮らせるまちづくり

- (1) 交通事故、犯罪などのない、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進
- (2) 災害に強く、安全、快適な都市空間の創出
- (3) 誰もが安心して移動できる環境の整備
- (4) 仕事と介護や子育ての両立支援を含む、高齢者や障害者、子育てに対する総合的な支援体制の充実

- (5) 高齢者や障害者の自立と支援、子育てなどを互いに助け合い、誰もが元気に活動できる地域づくり

## 5 緑豊かな美しい街並みとゆとりある住環境を創出するまちづくり

- (1) 中高層住宅と周辺環境とが調和した、ゆとりと潤いのある住環境の維持・創出
- (2) 緑豊かな美しい街並みづくりなど、地域の環境向上に向けた住民参加による取組の推進

## 南区

### 特性

市の南端に位置する南区は東京に最も近く、鉄道の利便性が高いため人口の増加が続き、市内 10 区で最大の人口を有しています。若い世代の割合が多い一方で高齢者が増加しているという特徴もあります。この中で、交通便利性に優れ、本市の副都心と位置付けられている武蔵浦和地区では、多様な機能の集積を目指して市街地再開発事業等によるまちづくりが進んでおり、地域生活拠点である南浦和駅周辺とともに、交通結節点として拠点性が高まっています。

### ●都市基盤・環境

鉄道網としては、南北方向に J R 京浜東北線、J R 埼京線が、東西方向には J R 武蔵野線が走り、これらが交差する 2 駅（武蔵浦和駅、南浦和駅）に加え、中浦和駅があります。また、主要な道路としては、国道 17 号新大宮バイパス、国道 17 号、産業道路、東京外かく環状道路、首都高速埼玉大宮線などがあります。全体として見ると、鉄道網、道路網による利便性は高い状況にあります。一方、区内の道路については東西方向の幹線道路などに未整備区間が残されているため、機能的な幹線道路網の確立が必要です。また、子どもや高齢者が安心して利用できる道路環境の整備も求められています。

南区は、東京への近接性に優れていることもあって都市化が進み、それに伴って雑木林などが減少してきました。今後も引き続き、マンション建設などによる宅地化の進行が見込まれるため、公園の整備や道路の植栽などに加え、民有地の緑化にも積極的に取り組み、緑を増やしていくことが必要です。同時に、利便性の高い安全な道路等、身近な生活基盤の充実を図るとともに、環境に配慮した誰もが快適に暮らせる居住空間を築き、子どもから高齢者まで「健幸」で元気に暮らせるまちづくりが求められます。

### ●産業

交通結節点である武蔵浦和駅や南浦和駅の周辺を中心に商業・業務機能が集積し、西部、南部には製造業や倉庫業が集積しています。特に武蔵浦和地区は企業誘致の重点エリアの一つとなっており、市街地再開発事業の進捗とともに、市の南の玄関口として産業面での役割が一層高まっています。

### ●地域資源

緑の空間は減少が続いていますが、東部を中心に屋敷林や社寺林が残されており、今後、保全すべき箇所を明確にしながら、潤いある空間として大切にしていける必要があります。また、別所沼や白幡沼、彩湖の水辺空間、鴻沼川や笹目川、藤右衛門川、見沼代用水西縁など

の河川・水路があり、水質の維持・向上とともに地域資源として有効活用していくことが求められます。

この他、南区に点在する寺社や古くから続く祭りなどの歴史・伝統、さらには武蔵浦和駅・南浦和駅周辺などに集積が進みつつある商業・業務機能を地域資源として活用することが課題となっています。

### ●コミュニティ

人口流入が続く中、多世代が長く住み続けられるまちをつくるためには、新旧住民の交流を進め、良好なコミュニティを構築することが不可欠です。そのためには、うなぎやサッカーなどの伝統文化に加え、新たな地域資源の発掘を進めるとともに、スポーツや新しいイベントづくりを通して住民相互の絆を深めながら、区民が地域に愛着を感じられるまちをつくる必要があります。

また、このようなまちづくりを進めるためには、市民と行政が協働することにより、市民のネットワークづくりや市民活動を活発化していくことが求められます。

※区マップを挿入

## 将来像

### 「にぎわい」と「安心」が調和する 住んでよかったまち

利便性を生かしたまちづくりや世代を越えた交流によるにぎわいの創出、共に支え合える人々の温かさや別所沼等の自然、歴史・文化から得られる安心感により、多くの人を呼び、誰もが南区の良さを実感し、心から住んでよかったと思えるまちを目指します。

### <まちづくりのポイント>

#### 1 人と地域が結び付く、活力あふれるまちづくり

- (1) 区民等の自主的な活動とコミュニケーションの活性化により、多世代が交流し、地域社会に参画できるまちづくり
- (2) 区民・団体・事業者・行政のパートナーシップの構築を通じた協働によるまちづくり
- (3) 誰もが楽しめる活動・交流拠点の充実によるまちづくり
- (4) 地域のイベントを通じた区民等のふれあいによるまちづくり

#### 2 子どもから高齢者まで「健幸」で元気に暮らせるまちづくり

- (1) 若い世代が子育てしやすいと思えるまちづくり
- (2) 一人ひとりが健康を維持・増進できる、互いに支え合うまちづくり
- (3) 家庭・地域社会・行政が連携し、子どもの成長をはぐくみ、健全な青少年を育成するまちづくり
- (4) 誰もが文化・芸術・スポーツに親しめるまちづくり
- (5) 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

#### 3 安全・安心なまちづくり

- (1) 事故や犯罪のない安全・安心なまちづくり
- (2) 地震や水害などの災害に強いまちづくり
- (3) 区民相互の支え合いによる安心を感じることができるまちづくり

#### 4 自然や歴史・文化を大切にしたい郷土愛をはぐくむまちづくり

- (1) 別所沼等の水や緑の保全、公共空間や民有地の緑化の推進による緑豊かなまちづくり
- (2) 地域資源の発掘・創造により、地域の個性を高め、郷土愛をはぐくむまちづくり
- (3) 古き良き歴史・文化と新しいまちが調和するまちづくり

#### 5 都市環境が整った快適なまちづくり

- (1) 駅とその周辺整備等による、活気があり暮らしやすいまちづくり
- (2) 誰にもやさしい交通網の整った便利なまちづくり
- (3) 利便性の高い安全な道路等の生活基盤の充実による、快適な生活環境を備えたまちづくり

(4)一人ひとりの環境への関心が高く、省資源・省エネルギーの環境負荷に配慮したまちづくり

## 緑区

### 特性

緑区は、市の東南部に位置し、首都圏有数の緑地空間である見沼田圃に代表される自然環境に恵まれ、地域の歴史を伝える多くの文化財が示すように古くから人の暮らしが営まれた地域です。現在も、緑豊かな住宅地として多くの市民が暮らしており、浦和美園駅周辺では「スポーツ、健康、環境・エネルギー」のブランド化を図るまちづくりを推進するなど、新しいまちづくりの戦略的展開も期待されています。

### ●都市基盤・環境

緑区は武蔵野特有の雑木林が多い農村地帯でしたが、首都圏の拡大に伴って区の西部や東浦和駅、東川口駅周辺で宅地化が進んできました。さらに、市街地においても緑の多いゆとりある住宅地が形成され、尾間木地区では、消防署、児童センター、公民館による複合施設、浦和美園駅東口駅前には、コミュニティセンター、支所、図書館、教育相談室などによる複合施設も開設し、地域交流の拠点を含めた生活基盤の整備が進められています。

また、中央部を南北に広がる見沼田圃は地域の貴重な環境資源であり、農地や自然環境の保全とともに、市民に親しまれる場として期待されています。

区内の幹線道路網は、南北方向に走る東部の国道 122 号や西部の第二産業道路、中央部を東西方向に走る国道 463 号により構成されています。鉄道駅は、東浦和駅、浦和美園駅がありますが、区境近くに位置しているため、バスなどが果たす役割が大きく、公共交通の利便性の増大が求められています。

また、浦和美園駅周辺では、公（自治体）・民（地域団体・企業等）＋学（大学等研究機関）の連携・協働により、良好な住環境の維持・向上や駅周辺等のにぎわい創出など、副都心にふさわしい都市環境形成を図り、定住人口・交流人口を増やすことが期待されています。

### ●地域資源

緑区は、さいたま緑のトラスト保全第 1 号地の南部領辻地内にある見沼代用水東縁に面する斜面林に代表される見沼田圃の豊かな自然環境、さぎ山記念公園や大崎公園を始め、緑の豊かな公園などの環境資源に恵まれています。

また、見沼通船堀（国指定文化財）、大門宿本陣表門及び氷川女體神社社殿（県指定文化財）や南部領辻の獅子舞（市指定無形民俗文化財）など、地域の歴史を伝える文化財、神社仏閣や伝統ある祭りや催しものが多く残されています。この他、埼玉スタジアム 2002 は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のサッカー会場になるなど、まちづくりに新しい展開をもたらす地域の核として期待されています。

## ●産業

区内には、従来の商店街に加え、大型商業店舗などが増加しています。また、浦和美園駅周辺では地区の魅力を創出する施設の誘致が検討されています。

農地では水稲や畑作、植木・花き栽培などが広く行われています。また、近年では観光農園など都市近郊の立地条件を生かした新たな経営形態への取組が図られています。

## ●コミュニティ

区内では、勤労者を中心とする子育て世帯など、比較的若い年代の転入者によって人口が増加していることから、旧・新住民が自治会活動やコミュニティ活動を通じて、多様な交流により相互理解を進め、区民の誰もがいつまでも住み慣れたまちで「健幸」に暮らせるよう、住民活動の活性化を図り、住みよいコミュニティづくりが求められます。

※区マップを挿入

## **将来像**

### **ホタル舞い・風かおる緑の街**

見沼田圃に代表される自然環境の豊かさ、人々のさわやかさや躍動感、緑の多いゆとりある良好な住宅地・発達した街という将来像に込められた想いを大切にしつつ、夢と希望の持てる住みやすいまちづくりを区民と行政との協働により進めます。

#### **<まちづくりのポイント>**

##### **1 郷土愛を育てるまちづくり**

- (1) 地域活動の機会創出と参加促進、地域のリーダー育成の支援
- (2) まちの魅力を共有できる世代間交流と地域間交流の促進
- (3) 見沼田圃などの地域資源や歴史・文化資源を活用し、子どもの時から自分のまちに関心を持つ、我がまちを誇りとする人づくり

##### **2 「健幸」に暮らせるまちづくり**

- (1) 子育て世代や若い世代への支援の充実
- (2) 高齢者や障害者、介護をする人々への支援の充実
- (3) 人が集い行き交いながら、共に支えあう意識の醸成
- (4) いつまでも元気で暮らせる健康づくりの支援

##### **3 安全で安心して暮らせるまちづくり**

- (1) 交通安全対策の推進と安全な道路環境の整備
- (2) 防犯意識の高揚と対策の推進
- (3) 防災情報の提供と地域防災力の向上

##### **4 自然と共生し、生活環境の整ったまちづくり**

- (1) 緑や水辺などの自然環境の保全、自然と調和した生活環境の整備
- (2) 交通渋滞の解消に向けた幹線道路の整備
- (3) 土地区画整理事業などによる計画的な市街地形成の推進

##### **5 にぎわいのあるまちづくり**

- (1) 地域資源や観光資源の活用と情報発信によるにぎわいの創出
- (2) 産直販売や観光農園など、地産地消の取組による農業の活性化

## 岩槻区

### 特性

岩槻区は、中世から鎌倉街道など主要道路と荒川（現在の元荒川）が交差する交通の要衝として重視され、室町時代以降、城下町として発展し、江戸時代には日光御成道の宿場町としても栄えた歴史のまちです。また、全国的に有名な人形のまちであり、岩槻城址を始め様々な歴史的資源と、人形店の並ぶ街並みや人形にちなんだ祭り、イベントなどがあいまって、区内外の人々の交流が生み出されており、本市の副都心として位置付けられています。台地上には屋敷林や社寺林が残され、これを取り囲むように連なる斜面林、そして、綾瀬川や元荒川を始めとする水辺がともに緑のネットワークを形成しており、水と緑に恵まれた自然環境は、区の大きな資源となっています。

### ●都市基盤・環境

区の中央を東武野田線（東武アーバンパークライン）が東西に延び、岩槻駅、東岩槻駅の2駅とターミナル駅である大宮駅とを結ぶ、区民の重要な足となっています。区の南北方向には、本市東部地域の発展を推進するため、新しい軸の形成として、地下鉄7号線延伸の促進に取り組んでいます。併せて地域の定住人口・交流人口の増加に向けた方策を展開しています。主要な道路としては、国道122号、国道16号及び国道463号、県道さいたま幸手線（日光御成道）、県道越谷岩槻線などがあり、道路体系の骨格を形成しているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジがあり、産業の大動脈となっています。

岩槻駅の橋上化による東西自由通路と駅前広場が整備され、商業の活性化と潤いのある地域の形成が期待されています。市街地は鉄道沿線にまとまっており、主に住宅地となりますが、駅周辺の中心市街地は、人形店の並ぶ商店街、伝統ある寺社や岩槻城址等の歴史文化的資源、各種公共施設など、様々な魅力と機能が集まっています。また、市街地の周囲には緑地や農地が広がり、特に、台地上の屋敷林や雑木林とこれらを取り囲む斜面林が、綾瀬川、元荒川と一体となって織りなす風景は、水辺と緑に恵まれた岩槻区を象徴するものとして区民に親しまれています。

コミュニティ施設、文化・スポーツ施設など、身近な公共施設もおおむね整備されていますが、一方で、都市基盤の整備が追いついていない面があり、さらに公共下水道の整備、子どもや高齢者、障害者も安心して歩ける生活道路や、自転車利用にも配慮した道路の整備などを進め、潤いのある安全な生活環境の確立に取り組む必要があります。

また、歴史・文化資源を活用し、都市型観光のまちづくりに向けて、まちの景観形成を進めていく必要があります。

## ●産業

全国的にも知名度の高い人形づくりは江戸時代に育まれた技を引き継いでおり、伝統的工芸品にも指定されていますが、年々事業所が減少する傾向にあり、観光などと連携した活性化に取り組んでいます。また、北部の岩槻工業団地を中心に、機械、金属などの製造業も集積し、市内の製造業の拠点として重要な役割を担っています。農業も活発であり、米のほかクワイ、コマツナ、ネギや、アサガオ、シクラメンなどの花や苗木の生産に特色があります。さらに、スティッキオ、ゴルゴなどのヨーロッパ原産の野菜を数多く栽培し、注目されています。

## ●地域資源

岩槻区には、国指定史跡の真福寺貝塚、玄奘三蔵法師とのゆかりが伝えられる名利慈恩寺、桜の名所としても知られる岩槻城址公園、時の鐘、岩槻藩遷喬館、さらに日光御成道の杉並木や街並みなど、古くからの歴史を伝える資源が多く残されています。歴史・文化にちなんだ祭りや行事も多く、まちかど雛めぐり、流しびな、人形のまち岩槻まつり、人形供養祭、古式土俵入りなどが、区内外の人々に親しまれています。

また旧岩槻区役所敷地には、岩槻人形博物館とにぎわい交流館いわつきが整備され、街なかのにぎわいを生み出し、人々が交流を促進する拠点となっています。

水辺と緑も岩槻区を象徴する資源であり、なかでも、キタミソウやチョウジソウの自生地のある元荒川緑地や赤坂沼には希少な動植物が生息しており、将来世代に継ぐべき貴重な自然空間となっています。

## ●コミュニティ

長い歴史のある地域コミュニティ活動や、ボランティア活動が活発な区ですが、新しく転入してきた住民や若い世代の参加をより進めるため、地域住民同士の交流を深める必要があります。

※区マップを挿入

## 将来像

### 自然と歴史、文化を守り育て、楽しむまち

岩槻区には豊かな緑と水辺、長い歴史を持つ神社仏閣、城下町や人形のまちとしての地域文化など、多彩な魅力があります。安心して心豊かな生活を送ることのできるまちの実現を基本に、これらの魅力を守り、生かしながら、農業や商工業、観光など産業面での新しい展開も促し、住んでいる人、訪れる人が岩槻のよさを共感できるまちづくりを進めます。

### <まちづくりのポイント>

#### 1 多世代の参加と交流による、区民主役のまちづくり

- (1) 住民同士のふれあいなどによる活力豊かな地域コミュニティの醸成
- (2) 区民と行政が連携した地域コミュニティの活性化に必要な仕組みづくり
- (3) 住民があらゆる分野で交流し、多様な文化を認め合い、暮らしを支え合う身近な地域社会の形成
- (4) 区民と行政とのパートナーシップの確立、区民の主体的なまちづくり活動に対する支援などによる、区民と行政が共に考え、はぐくむまちづくりの推進
- (5) 人形づくりや田植えなどの様々な体験を通じた、子どもの地域に対する愛着心や誇り、喜びをはぐくむ地域交流や教育の推進

#### 2 地域資源を生かした、魅力の向上とにぎわいを創出するまちづくり

- (1) 岩槻駅周辺の商業・文化機能の充実と歴史ある街並みを生かし、にぎわいを創出するまちづくりの推進
- (2) 元荒川や屋敷林・雑木林や斜面林など豊かな自然環境を守り、育てる活動の充実と、水辺と緑のネットワーク化の推進
- (3) 子どもの頃から優れた文化芸術に触れる機会の充実、区民の多彩な文化芸術活動の支援など、豊かな文化環境づくりの推進による、個性ある地域文化の育成
- (4) 城下町としての歴史資源や、人形のまちという文化資源を生かした「岩槻らしさ」を磨き、市内外へ積極的に情報発信し、多彩なネットワークを持つ都市型観光の形成に向けた受入環境の整備
- (5) 環境に優しく、安全な食料を提供する農業の振興や、クワイ・コマツナ・ヨーロッパ野菜等農産物のブランド化の推進

#### 3 生活環境の整った、安全・安心で暮らしやすいまちづくり

- (1) 次代を担う自立した青少年の健全な育成の推進
- (2) スポーツなど健康づくりのための機会や場所の充実
- (3) 緑や水辺、歴史、文化が溶け合う美しい景観に恵まれた、ゆとりのある居住空間の維持、創出

- (4) 歩行者及び自転車利用者が安心して通行できるための交通安全意識の高揚と安全な道路整備の推進
- (5) 高齢者を始め誰もが安心して利用しやすい身近な交通環境の充実
- (6) 交通利便性の向上と若い世代の定住化促進や商店街の活性化を図るなど、更なるにぎわいの創出につながる地下鉄7号線の延伸促進
- (7) 自助・共助・公助の連携による、地域防災力・防犯力の向上
- (8) 高齢者や障害者、子育て世帯などが安心して暮らせる地域福祉社会の形成